



# リジエネプロジェクト ～5年間の歩み～

豊かな景観と砂防林の機能を回復するために、森林環境譲与税を活用し、令和元年度から実施してきた「村松晴嵐『クロマツ林』リジエネプロジェクト」。今回は、プロジェクト開始から5年という節目を記念し、これまでの活動や東海村の砂防林の歴史についてご紹介します。

【問い合わせ】農業政策課農業振興・農地保全担当(☎282-1711 内線1223)

## プロジェクトの概要

今年で5年目となる「村松晴嵐『クロマツ林』リジエネプロジェクト」は、松くい虫の被害により松林の景観が損なわれてしまった水戸八景の一つである村松晴嵐を、以前の姿へと再生しようとした取り組みです。村と共に、日本原子力研究開発機構や東海村愛林組合と連携し、クロマツの植樹を通じて、森林を整備することを目的としています。なお、本プロジェクトは森林環境譲与税を活用しています。



▲森林環境譲与税の詳細はこちら

## 主な活動を紹介いたします

このプロジェクトには二つの柱があります。

一つ目は、森林整備です。村松晴嵐の碑周辺から八間道路にかけて、除草・整地・クロマツの植樹・植樹した幼木への保護ネットの設置等を行い、5年間で2千本以上のクロマツを植樹しました。先人たちが作り上げてきた豊かな景観と砂防林の機能回復を目指しています。

二つ目は、学習会の実施や植樹体験による普及啓発活動です。地元の照沼小学校や地域住民の方々から参加者を募り、砂防林の歴史やその大切さについての学習と植樹体験を

行ってきました。5年間で参加してくださった方は、延べ約300人になりました。

## 今年度の植樹体験

2月12日に一般参加者、2月19日に照沼小5年生が、クロマツの勉強会および植樹を体験しました。2日間で218本のクロマツを、八間道路の一部へ植樹しました。参加者からは、「自分が植えたクロマツの位置を覚えておかないと!」、「ちゃんと大きくなれるかな」など、今後の成長を楽しみにする声が聞かれました。



## クロマツ林の回復を目指して

プロジェクト名の「リジエネ」には、「ゆるやかな回復」という意味が込められています。今回は5年という節目ですが、これから50年、100年と長い時間をかけて見守り、クロマツ林の再生に取り組んでいきます。



## Pick up! ① 東海村の砂防林の歴史

皆さんは、東海村の海岸一帯に伝わる「千々乱風」伝説をご存じですか。これは江戸時代の初めごろ、大風が吹き続け、村が砂に埋まってしまったという話です。

この話の舞台となった村松海岸は、明治時代の終わりごろ、広大な砂丘地帯で、海からの強風で吹き付ける砂や潮風に人々は悩まされていました。

このままでは集落が砂に埋もれてしまうという危機感を覚えた村松村長は、県知事に砂防工事の嘆願書を提出し、これによって1918(大正7)年、村松海岸が国の「海岸砂防林造成に関する試験地」に選定されました。

その後、河田杰博士<sup>かわだまさる</sup>を指導者とし、延べ35年間、約2万3,000人という多くの村民の力により約160ヘクタールの砂防林が完成しました。 ▲1955(昭和30)年頃の八間道路



### 【東海村愛林組合について】

砂防林の造成事業にあたり実際の作業を担ったのは、農家が集落ごとに組織した「愛林組合」です。その功績は「村松海岸砂防林造成の碑」に刻まれ、今に伝えられています。 ▲村松海岸砂防林造成の碑



## Pick up! ② 村の木「クロマツ」のこと

### 【なぜクロマツを植えるの?】

クロマツは、潮風に強く海岸沿いでもたくましく育つことができます。このため、海岸の植樹にはクロマツが選ばれています。

### 【クロマツ林を脅かす「松くい虫被害」って?】

2種類の虫(マツノザイセンチュウ・マツノマダラカミキリ)が引き起こすマツの伝染病です。村では伝染病予防のため、薬剤の空中散布などの対策を行っています。



## 村松晴嵐「クロマツ林」

### ～ 村松晴嵐クロマツ林の過程 ～

- 2013(平成25)年2月撮影  
(マツ枯れ前)



東海村を代表する景勝地として親しまれる

- 2019(平成31)年2月撮影  
(マツ枯れ後)



松くい虫被害によって枯れてしまったマツ林…

- 2024(令和6)年2月撮影  
(植樹開始から4年)



少しずつ回復中!